

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	170101109		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア中央倶楽部		
所在地	札幌市中央区北7条西12丁目11-2 (電話)011-281-3434		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年8月7日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】(平成19年7月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月31日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	18,500円 (暖房費11月~3月)6,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400円	昼食	400円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(7月17日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名	
要介護1	6	要介護2	1			
要介護3	1	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	77.6歳	最低	68歳	最高	87歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団友善会宮の沢ファミリークリニック にひら歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームライフケア中央倶楽部は、運営者のこだわりから、建物は新築ではなく改造型とし、リハビリにも活用できるようにと、あえてバリアフリーではなく階段・段差のある造りにしている。そのため、ホーム内は自宅のような落ち着きがあり、暖かな雰囲気満ちている。利用開始前に1週間の体験入居を実施しており、入居後は、食事の際に管理者がテーブルの向かいに座り、話しかけながら馴染んでもらうようにするなどの配慮がなされている。利用者職員はお互いに双方向の関係と位置付け、職員はお世話をさせていただいているという、利用者本位の姿勢に徹している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価で要改善とされた理念の内容、生活・娯楽用品の品揃え、緊急時対策、家族連絡のいずれに対しても反省や改善に向けて具体的に検討し、殆どが改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の実施には職員全員で取り組んでおり、自己評価と外部評価の結果を踏まえて反省や改善に向けて具体的に検討し、実践している。管理者、職員とも、評価を気付きと改善の好機と前向きに捉え、日頃の実践に生かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、創設以来2回実施しているが、ホーム側からの報告内容が主となり、参加者との意見交換までには、まだ至っていない。しかし、事例紹介などで、地域に対する認知症の知識普及の役割は果たしている。今後は、サービス評価の結果も運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、参加者には、実践したときのモニターとしての役割をお願いするなどの取り組みを予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会の結成を模索してはいるが、今のところ家族側の事情もあり実現できていない。家族に対して、気軽に何でも話し合える雰囲気作りを努めているが、利用者や家族からの不満や苦情を聞き取る機会はあまりないので、今後は、定期的なアンケートなどを検討し、実施していくことを予定している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入しているが、会の活動は活発ではない。しかし近所の公園へ散歩に行く際は、ゴミ袋を持参し、公園周辺のゴミ拾いや草むしりをしているので近隣住民の好感を買い、声をかけられたり、近隣住民から情報や援助も受けるなど、地域との交流、連携は親密である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前に掲げていた理念を、平成18年の新しい制度発足に伴い、地域密着の理念を取り入れたものに改定した。さらに表現もわかりやすく改めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用の際には必ず、理念の説明を行なっている他、毎月のスタッフミーティングでは理念について話し合っている。		毎月のスタッフミーティングの他に、随時行なわれているスタッフの集まりなど週に1度は、議題に応じて理念に触れるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加してはいるが、会の活動はあまり活発ではない。しかし、この地域と古い付き合いのある従業員がいることもあって、近隣とは親しい付き合いがある。また、散歩の折は必ずごみ袋を持参して、道路や公園のごみを拾い集めるようにしているため、近隣から感謝されている。		単独町内会での活動に加え、連合町内会レベルでの活動参加も検討することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員とも、自己評価、外部評価を、気付きと改善の好機として前向きに捉えている。前回の外部評価で指摘された点については真摯に捉えて、全てについて改善の対応をしている。		系列内他施設との間で相互評価を計画中とのことであるが、複数施設を抱えることの利点を生かして、質の向上に繋げるよう、期待したい

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来既に2回実施しているが、回数を増やすことについては他の参加メンバーの理解が難しい。会議では、施設のことだけではなく、地域在住高齢者の現況についても話題に乗せている。また、認知症の事例紹介などによって、地域の人々の啓発にも役だてている。		次回は10月開催予定とのことであるが、地域への貢献も視野に入れると同時に、自己評価、外部評価についても議題に載せることを期待したい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所との連携は定期的にあるが、市との連携はあまり取れていない。		市の担当窓口を、2ヶ月に1回程度定期的に訪問し、報告や相談など積極的に情報交換を行っていくことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「中央倶楽部通信」を月1回家族宛てに送付しており、その際、写真や本人自筆の手紙、あるいは代筆の手紙などを同封して、様子を知らせている。また、家族が来訪した折には写真や日報を見せてできるだけ細かな報告をしている。		家族への通信には、預かっている金銭の出納記録も併せて同封、通知するよう、期待したい。また、これからはメール通信を利用する家族も増えてくるので、可能な相手に対してはメールでの報告も検討するよう、期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の結成が望ましいとは考えているが、家族側の事情もあり、当面実現は困難である。不満、苦情の処理手順や、表明できる外部機関は、利用契約並びに重要事項説明に明記されている。家族が来訪した際にはできるだけ聞き出すよう、努力している。		家族が意見・不満・苦情等を気兼ねなく表せる機会作りのために、定期的なアンケートなどを検討し、実施していくことを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職したり新しい職員が入った場合は、利用者に個別に説明し、引継ぎには1週間以上をかけている。職員の施設間の異動に備えて、職員の相互訪問や、合同のレクリエーションなどで、系列施設の職員とも馴染みを広げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で、毎月1回スタッフミーティングの後に勉強会が行われている。中央区内グループホーム共同企画の勉強会に2名参加した他に、外部研修にも今年2回参加した。		市の窓口や、管理者会議などで、勤務ローテーションに無理がないような半日程度の外部研修の情報を入手し、段階的に研修の機会を確保していくことを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区にグループホーム連絡会があり、その中で年3回、事例検討などの勉強会を実施している。防災やケアプランのテーマも予定されている。		中央区には、グループホーム管理者による勉強会もあり、8月には相互訪問によるスタッフ見学会が計画されているとのことであるが、是非実現させて、有益に活用されることを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫し	利用開始前に、本人や家族等には必ずホームを見学してもらっている。また、1週間の体験入居を実施している。入居後は、食事の際に、管理者がテーブルの向かいに座り、話しかけながら馴染んでもらうようにしている。また、入居の当初はできるだけ家族の来訪や電話連絡を促し、安心して入居生活に入れるよう、努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と対等な関係で自立した生活を支えるという理念に徹しており、職員が利用者から教わる機会も多い。レクリエーション、買い物なども、お世話をするというよりは、ともに楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向は入居の当初から家族からの情報も得て、把握するように努めている。日頃の生活の中で丁寧に時間をかけて、表情や様子も見ながら、意思を確認している。言葉が難しい時は筆談も活用して、コミュニケーションに努めている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作るにあたっては、管理者であるケアマネージャーが本人、家族、職員の意見を聴取して原案を作成し、これに対して、再度関係者の意見を求め、確認を得て計画としている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、基本的には3ヶ月ごとに見直ししているが、病院退院後や状況が変化した場合は、利用者・家族と相談のうえ随時見直ししている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族が同行できない場合は病院等への送迎を行っている。また、利用者個々の要望に応じて海を見に行くなど、臨機応変に対応している。</p>		<p>今後も、事業所として必要な、多様な支援を検討していくことを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の協力医が2週間に1回往診しており、要望があれば他の専門医の紹介もしている。現在、殆どの入居者が協力医に往診してもらっているが、入居以前からのかかりつけ医を受診する利用者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化と終末期の対応に付いての合意を書面で得ている。状況の変化があればその都度再確認し、必要があれば変更している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員に対しては、入社研修でプライバシーに関する指導をしており、守秘義務についても利用契約書と運営規定に明記している。利用者に対しては、個人の書類は事務所内のみで取り扱い、排泄の誘導等の声かけには特に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の生活は、基本ルールはあるが、原則自由である。起床、食事、就寝など声かけはするが強制しない。飲酒や喫煙も一定のルール内で自由である。利用者が散歩に行きたいときは職員が可能な限り同行しているが、人員の関係で、時間をずらしてもらうこともある。		今後は、可能な限り利用者の散歩に行きたいというタイミングを外さないように、職員のローテーションを調整していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けには、利用者も参加し、職員も一緒にテーブルに着いて食事をし、ともに楽しんでいる。月ごとの献立は、利用者の意見を聞いて決定している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎週月、木の週2回、9:00~15:00としているが、要望があれば曜日・時間帯にこだわらず応じている。現状では週2回以上の入浴希望者はいない。入浴拒否の利用者に週2回なんとか入ってもらうことを目標としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 旅行や音ひのるロクを過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者に食事の後片付けや掃除、植物の水やり、時計の電池換えなど興味を持てるような仕事をお願いし、常に「ありがとう」の言葉ががけをしている。行事では、時には遠出の企画をして、日常生活と異なった体験をしてもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は月1回以上行事があり、年4回は大きな行事も企画されている。日常では週1回は近くの公園へ散歩に行き、ドライブや外食など、外出の機会が多いが、冬季にはどうしても外出の機会が少なくなる。		冬季には、車で大型ショッピングセンターに買い物に行く回数や、外食の機会を増やすなど工夫して外出の機会を増やしていくことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。職員の見守りとチャイムで安全を確保している。利用者が1人で外出しようとしたときは、職員は大きな声で制止したりせず、さりげない声かけをしながら同行するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災と地震を想定して年2回、定期的に避難訓練を行っている。町内会会長や近隣の方には非常時の支援を依頼してある。緊急マニュアルの整備も進んでいる。		消防署の協力のもとに災害対策の勉強会を検討していくことと、運営推進会議で災害対策を議題に挙げて話し合うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部で栄養士が献立をチェックしており、今年も、栄養士の指導のもとに栄養についての勉強会を行った。食事の摂取量はおおまかに把握しているが、水分摂取量に関しては、定期的に摂ってもらっているが量は記録していない。		水分摂取量についても、概算量を記録に残していくことを期待したい。また、今年行った栄養についての勉強会を更に発展させるために、管理栄養士等専門家の協力を得て第2回目の勉強会を検討中とのことなので、実現を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の玄関(玄関、廊下、石間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	学生下宿を改造した建物であり、新築にはない馴染みやすい雰囲気がある。壁には行事等の写真がたくさん飾られており、居間にある季節の飾りつけは利用者と職員の共同作品である。2階には寛ぎのスペースがあり、日中をそこで過ごす利用者も多い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、以前から使用していた馴染みの物や、写真・レンダーなどなんでも持ってきてもらうよう家族に話している。居室には家具、装飾品、置物、記念の品などが備え付けられ、利用者1人ひとりの個性に合わせた居心地のよい空間になっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。